

メディア・ユニバーサルデザインの情報誌



本書は、メディア・ユニバーサルデザインの考え方で作られています。

# ミカタ

2017 VOL.2

特集 / 理事長挨拶～情報保障とMUD協会の役割と取り組みについて

更に進化し、より多くの方に「分かる、伝わる」情報提供を

特定非営利活動法人 メディア・ユニバーサル・デザイン協会 理事長

浦久保 康裕



特集 / 理事長挨拶 情報保障とMUD協会の役割と取り組みについて

## 更に進化し、より多くの方に「分かる、 伝わる」情報提供を

特定非営利活動法人 メディア・ユニバーサル・デザイン協会 理事長 浦久保康裕

### メディア・ユニバーサルデザイン 協会設立から10年が経過して

東京都印刷工業組合墨田支部から始まった色覚障がい者の方に配慮した「色覚バリアフリー」。その技術を全日本印刷工業組合全国青年印刷人協議会がカラーバリアフリーとして全国の印刷会社に発信し、その後、配慮対象者を高齢者、身体障がい者、外国人、子供に広げ、色覚だけでなく情報伝達に必要な技術や手法を網羅しメディアユニバーサルデザイン（MUD）と改め

ました。そして、MUD普及啓発事業を行うために組織された当法人も間もなく設立10年を経過しようとしています。そしてこの10年間で社会を取り巻く環境も大きく変わりました。外国人観光客の増大や2020年に開催が決まった東京オリンピック・パラリンピック、そして進む超高齢化少子化、更に国が掲げる障がい者、高齢者、女性などすべての国民が生き生きと暮らす一億総活躍社会の実現など。そしてこれらの実現を加速させる為に整備される法規制など、私たちもこのよう

な社会環境変化に対応するためにコミュニケーションを支える知識や技術も進化させていかなければなりません。

### 「情報保障」が求められる時代に 私たちがするべき事

多種多様な人々が生き生きと暮らす社会、言い換えればダイバーシティを実現していくために必要不可欠なのは多様性の受入れであり、受入れのためには相互が理解可能な情報発信を行うことが重要になります。そんな中、私たちMUD協会は従来の考え方を一歩進め、組織や社会の中に存在するすべての人が情報を受取り、理解できることを保障する「情報保障」を掲げ、行政・企業・教育機関や団体とも積極的に情報交換、協業を行ってまいります。人種も性別も年齢も違う人々に一つの情報を正しく伝えるには、さまざまな配慮が求められます。たとえば明日の天気といった日常生活に欠かせない情報を伝えるにも、日本語だけな

く日本語が理解できない人々の存在も想定して他言語への翻訳も必要になってくるでしょう。文字を使って伝達する場合は、フォント（書体）の種類や大きさ・色を視覚に障がい者や高齢者にも読めるよう最適化することが必要です。漢字を理解できない子供に考慮し、文字だけでなくイラストやピクトグラム、記号を添えることも場合によっては必要とされるでしょう。さらには音声で伝達する用意も考慮すべきです。このように、多様なアプローチが組み合わさって、重なりあって、多くの方が理解できる情報になっていきます。日本人も外国人も、体に障がいがある人もない人も、子供も大人も高齢者も、男性も女性も性的マイノリティの人も。つまりは「組織や社会の中に存在するすべての人が情報を受け取り理解できることを保障する」ことが「情報保障」と、私たちは考えます。すべての人が等しく情報の収集が可能なることを保障し、一人ひとりが情報を理解できるようにすること。そして情



MUD教育検定の様子





## 事例紹介 / 印刷メディアに対してのMUDの取り組み

# 多くの発信ツールを制作。中小企業の社会貢献としてMUDの普及啓発をしています

株式会社マルワ(愛知県名古屋市中区) 代表取締役社長

特定非営利活動法人 メディア・ユニバーサル・デザイン協会 理事 鳥原久資



## ご発注いただく印刷物すべてのデザインにMUDの概念を

当社は見やすい印刷物の提案に力を入れています。全社員がMUDアドバイザーでうち2名がMUDディレクター取得、ご発注いただくすべての印刷物のデザインにメディア・ユニバーサルデザインの概念を取り入れています。取り組みのきっかけは2003年の

国際印刷機材展「GAS2003」で見かけた東京メトロの路線図。複雑な地下鉄路線図を、色弱者向けに配慮し

再現している展示物と出会ったのが最初です。当時、介護関係の仕事にかかわっており高齢者や介護を必要とする方々への情報発信に関心があった時期でしたので、あらためて積極的に取り入れていこうと思ったきっかけとなりました。

## より多くのお客さまへ気軽に知ってもらおうと絵本に

こうした考えを印刷物に取り入れることは、社会貢献につながると考え、以来普及用のリーフレットを制作して発信。また関連の販促品を企画しお客様への普及に努めていきました。そのひとつが「見え方の多様性」という絵本です。

## 学生さんたちの声を反映して商品開発を

いただいた声をより多くの方に伝えたいのですが、実際には表面上の事しか伝えることができず、わかりやすく説明するためのツールの必要性を感じるようになってきました。

絵本は「人種によって肌の色が違うように感覚は人によってそれぞれ違う」というメッセージで始まり、「人によって色や文字の見え方に不自由を感じる人がいること」「子供や外国人は正しい情報が伝わりにくいこと」といったMUDの理念を丁寧に伝えていきます。絵本は各種イベントで配布され手に取られた方からは「こんな人たちがいるんですね」「子どもが色弱のため学校現場で不自由を感じています」といった生の声を数多く聞くことができました。

ちょうどそんなときに中部マーケティング協会主催の「大学生のためのマーケティング研究講座」に参加。マーケティングの実践を通して学ぶ材料としてMUDを取り上げていただき、中京大学の学生さんと一緒に考える機会を持つことができました。ところが、初回会議の冒頭に担当のゼミ教官の「君たちはMUDが必要か」の一言。「見やすい」というメッセージは、不自由に感じない人にとってはかえって邪魔であり、ピンとこない切り口だったのです。如何に「見やすい」という言葉に固執していたかをあらためて知ることとなりました。



MUDの概念を取り入れた自社工場見学用パンフレット



第7回MUDコンペティションで経済産業大臣賞を受賞した「見えにくいカレンダー」



MUDの理念を丁寧に伝えている「見え方の多様性」

**身近なところから  
情報保障への取り組みを**

当社は毎年200名を超える方の会社見学があります。その際に使う工場見学用のパンフレットもイラストやルビ、英語表記もありまさにMUDの概念を入れていきます。

こうした継続した活動もあり、地域

普及していくにあたっては「日々使ってもらえるものもいい」ということで商品をつくることに決定。「見やすい」から「見えにくい」に視点を置き替え、徐々に見えにくさを解決をしていくというストーリー性を商品に持たせました。これが「見えにくいカレンダー」の製作でした。

不自由さとは一体何だろう、学生たちとの話し合いはまずそこからその視点に立って議論を重ね、不自由さとは不安であり、それを解決していく事は「安心、安全」につながり、それを実感していく事でMUDの理念を普及していく事になるという学生たちからのアドバイス。目から鱗の彼らの思考は苦勞していた普及活動がグツとしやすくなる実感した時でした。おかげさまでストーリー性のある視点が評価され、第7回MUDコンペティションでは経済産業大臣賞を受賞することができました。

防災やBCPでの発表の機会をいただいています。発表をお聞きいただいた関係者のご縁で、愛知県議会に取り上げていただき平成29年度にはユニバーサルデザインにかかわるガイドライン策定が予算に付き、行政もいよいよ関心を持っていただけることとなりました。

スマホやSNSの発達で多くの情報発信がされています。今まさに「情報保障」が必要な時代となっています。これからも多くの発信ツールを企画し、来社いただいた方や講演の場でもMUDを発信し、中小企業ができる社会貢献の一つとして育てていきたいと思っています。

●企業プロフィール

株式会社マルワ

<http://www.maruwanet.co.jp/>

本社所在地：名古屋市天白区平針4丁目211番地  
(支社/東京池袋)

代表者：代表取締役社長 鳥原 久資

創業：昭和33年6月

事業内容：総合印刷関連、販促企画関連、マルチメディア関連、その他(企画・取材・リライト・出版・販売促進のコンサルティング)

## 障害者差別解消法を実効あるものとするために

### 1. 情報伝達における 不自由さ・不便さを知る

表現の自由と共に尊重されるべき権利に「知る権利」があります。私たちが情報を受け取り、自分の意見や考えの形成に大きな影響を与えるといったことから大切な基本的権利といえるでしょう。

う。現在、狭義には「身体的な障がいによる情報を収集することが困難な人に対して、さまざまな手段を用いて情報を提供すること」と理解されていますが、身体的な障がいをもたない健常者にとっても、情報の収集、そして理解を保障するものといえ、基本的な権利と密接な関係をもっていることを強く認識すべきでしょう。



「障がい」を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が平成28年4月から施行されました。この法律では、不当な差別の取り扱いが禁止され、障がい者への「合理的配慮」について行政機関や地方公共団体には法的義務が、そして民間業者には努力義務が課せられます。また、「障害者雇用促進法」においても事業主に、障がい者が職場で働くに当たっての支障を改善することが義

務付けられています。このように法的な整備が急速に進む中、情報伝達分野における「合理的配慮」の具体策を示すことが必要ですがその具体的な取り組み内容やその成果についてはその事例が乏しく、具体的な取り組みを加速させていく為には事例やその指針となる基準の整備を急がなければなりません。その第一歩が障がいの種類や症状ごとにどの様な不自由さや不自由さが存在することへの理解から始まる。

### 2. MUDでは視覚情報の 最適化指針を明示

人は情報の80%以上を視覚から得ており、印刷は情報伝達において、これまで、これからも重要な役割を担っています。印刷業界ではすべての人に最適な視覚情報を提供するため、「ユニバーサルデザイン」の考え方を視覚メディアに反映させる取り組みを2007年からはじめています。MUDでは視覚情報の最適化を行うために5つの原則を定めました。

- ・アクセシビリティ（接近容易性）
  - ・ユーザビリティ（使いやすさ）
  - ・リテラシー（読めて理解できる）
  - ・デザイン（情緒に訴える）
  - ・サステナビリティ
- （持続可能性を満たす品質であること）

この5原則を印刷物、ウェブサイトなどに具現化しています。そして、障がいを持つ人とともに、障がいを持たない人でも、子供や高齢者などの情報弱者に対しても、適切な情報の提供に力を注ぐと共に、多くの具体的な事例や知見を集めるの手法として「メディア・ユニバーサルデザインコンペ」を実施しています。そして、最優秀賞には経済産業大臣賞が授与されるまで社会的認知度が上がり、自治体をはじめ多くの企業がその取り組みを評価し、採用しています。

### 3. 着実に社会に 根付かせるために

障害者差別解消法は施行後3年を目途に、合理的配慮のあり方等の法律の施行状況について検討を加え、必要があると認めるときは見直しが行われると記載されています。現在、行政機関等の職員のための対応要領の策定や事業者のための対応指針の策定のために各自治体では障害者差別解消支援地域協議会を組織し具体的な取り組みをしているがその組織すら存在しない自治体が多く組織化されている自治体でも十分な議論がされているとは思われない。MUD協会では情報伝達分野における合理的配慮に対応する「情報保障ガイドライン」の策定に着手します。■

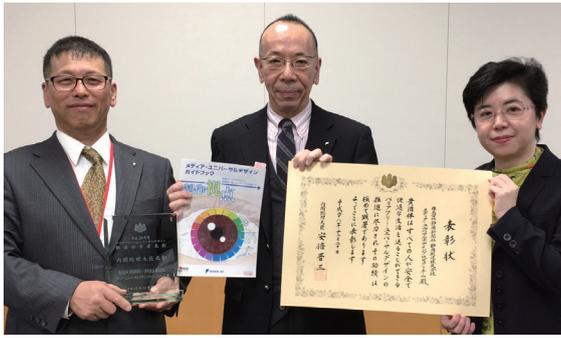
## トピック2 / 平成28年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰(内閣府実施)

### 静岡新聞社・静岡放送

### UD推進で内閣総理大臣表彰

静岡新聞社・静岡放送が社内に設置しているメディア・ユニバーサルデザイン(MUD)プロジェクトチームが平成28年12月20日、内閣府の2016年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で内閣総理大臣表彰を受賞した。

同チームは色覚障がい者や高齢者らに配慮した情報発信を目的に発足。読者やテレビ視聴者が認識しづらい色合いを示した社内用ガイドブック



賞状とMUDガイドブックと  
松枝部長(左)齋藤次長(中央)と梶担当者 望月氏(右)



内閣総理大臣表彰授賞

を作成し、社内配布してカラーUDを進めた。静岡新聞では新聞UDフォントを導入し見やすい紙面製作に取り組んでいる。静岡放送では瞬時に文字やグラフが理解できる見やすさを考えるとともにニュースの内容や季節に合わせたデザイン性も盛り込んでいる。メディアとしてUDを進めている点が高く評価された。出典「静岡新聞」

## トピック3 / MUDラボ開設

### 高齢者の見え方の実証実験をスタート

静岡文化芸術大学では開学当初からユニバーサルデザインの教育に力を入れてきました。2015年にはUDラボを創設しUDに関する様々なワークショップやシンポジウムを開催しております。実際に料理を作りながら様々な使い勝手の検証ができる「UDキッチンブース」、照明の色温度と照度を自由に変えられる「UD実験ブース」、多様な特性に配慮した絵本の閲覧や制作ができる「UD絵本ブース」など様々なUD体験ができる施設となっております。それをリードしているのが小浜朋子准教授で、小浜先生はUDを楽しみながら学んで頂きその実験研究をデザインや文化政策に活かして行きたいと情熱を注いでおられます。

このたびその「UD実験ブース」をMUD協会事務局(東京都墨田区)にも開設し実証実験を開始しました。墨田区は高齢化が進んでいる街でもあり実証実験をするには適している場所でもあります。町内会に集まる高齢者の方々27名を対象に「新聞の読みやすさ評価」を実験。読みやすさと感じる新聞にはどのような特徴があるのかUD配慮された文字はどの程



MUDラボでの実証実験

度効果があるのかなどを明らかにする評価を5つの新聞を対象に行いました。文字のみやすさについては従来よりも文字を大きくする配慮を行っている新聞については、全体に読みやすさと評価されており特にUDフォントを使ったテレビ欄は圧倒的な高評価でした。しかし文字の大きさがあがる程度確保されるとコントラストのうすい細い文字や文字の縦横比のかけ方によって詰まった感じに見える文字などはネガティブな評価が出てきました。他にも様々な貴重な意見が集まり「読めるか?」かどうかではなく「読みたくなるか?」かが、新聞の大事な要素であることが再認識されました。今後もMUD協会では小浜先生と協力し様々な実験を通して情報を提供していきたいと考えております。

# 有資格者3291人に！ (2017.8月現在) メディアユニバーサルデザイン 教育検定

MUD協会では老眼や白内障の中高齢者や色覚障がい者の方々にも分かりやすいメディアユニバーサルデザイン普及のための教育検定を実施しております。既に有資格者も3291名を超えました。今後の検定スケジュールは右記の通り予定しております。詳細はMUD協会のホームページをご覧ください。

メディアユニバーサルデザイン協会事務局: TEL 03-3634-2970  
<http://www.media-ud.org>

## 教育検定 2級

**東京** 平成29年10月13日(金)・14日(土)  
会 場: 日本印刷会館5階  
受講料: 54,000円(消費税込み)

## 教育検定 3級

**福島** 平成29年9月23日(土)  
会 場: 日本印刷会館5階

**東京** 平成29年10月28日(土)  
会 場: TKP九段下神保町ビジネスセンター

**大阪** 平成29年11月25日(土)  
会 場: 大阪市立デザイン教育研究所

受験料 一般: 16,200円(消費税込み)  
学生: 5,400円(消費税込み)

## 高齢者や色覚障がい者にもわかりやすい “きれいにはって、はがせる” 「避難所設営シールセット」※特許出願中

災害時、避難所を設営する際、このセットさえあればほとんどの表示対応が可能なセットです。高齢者や色覚障がい者にも情報が伝わりやすい工夫がされており、受付からトイレの表示、ごみ分別などの表示はもちろんのこと、スタッフシールや書き込み可能な掲示板や伝言板、立ち入り禁止シール等々、表示に必要なものをひとまとめにしました。実際に2016年の熊本地震の際にも使用され、更に改良して作られています。

### お問い合わせ先

NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会  
東京都墨田区立川1-15-1

TEL 03-3634-2970  
<http://www.media-ud.org>

### スタッフシール



誰がスタッフかわかる

### 立入禁止シール



危険な場所に設置

### ごみ分別シール



袋の固定と、分別を表示

ふた部分に写真付きで  
使用方法、用途を  
わかりやすく記載

### 掲示板シール



掲示物を項目ごとに分け、  
見やすく

### 案内シール



通路の柱や壁面に使用し、  
目的の場所まで案内

2016年 第9回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション「経済産業大臣賞」受賞  
MUD(メディア・ユニバーサルデザイン)認証商品\* 希望小売価格28,000円(税・送料別)  
販売元 NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会  
製造元 大阪シーリング印刷株式会社

\*「MUD認証商品」とは、印刷物やホームページなどの読みやすさや、わかりやすさについて、NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会が、第三者認証を行ない認証した商品です。

## Cover Artist 《表紙のアートご紹介》



作家: 志方弥公(しかたみさと)

作品タイトル: 「独りじゃないよ」

先天的に聴覚障がいを持つ。本格的に絵を描き出したのは2008年から。それ以降、CDカバーイラスト、マスコットキャラクター、本の装丁イラスト、ポスターイラストなどを手掛けている。

“Paralymart”は、障がい者アーティストの経済的な自立を目的とし、彼らのビジネス支援を行なう活動です。

2007年にスタートし、これまで数多くの障がい者アーティストとその家族を支援してまいりました。素晴らしいアートをご紹介しますので、ご興味のある方は是非一度WEBサイトをご覧ください。

**Paralym Art**  
障がい者アートを応援しています

<http://paralymart.or.jp>